



代表取締役社長
穴見陽一

未曾有の大災害のなかで実感した当社の存在意義。 より強い使命感を持って地域社会に貢献してまいります。

本年3月24日の株主総会にて取締役役に就任し、直後の臨時取締役会にて代表取締役社長に就任いたしました、穴見陽一でございます。

株主の皆様におかれましては、平素より当社発展のために様々な形でご尽力賜っておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。さて、ここに第37期(2011年12月期)の中間報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただけますよう、宜しく申し上げます。

まず、東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、皆様の安全と被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

3月11日の大震災により、当社におきましては宮城県内14店舗が被災いたしました。しかし、お客様に怪我なく速やかに避難いただけたこと、また、従業員全員の無事が確

認されましたことが不幸中の幸いでございました。

その後、交通インフラやライフラインの復旧と併せ、3月30日より5月23日にかけて、14店舗中、13店舗の営業を再開させていただきました。しかし気仙沼店だけは津波により店舗が完全に水没し、さらに地盤沈下によって前面道路が満潮時に冠水すること、また周辺地域が津波被害の最も激しい地域であったため、復旧の目処がまったく立たないことから、残念ながら閉店という決断をさせていただきました。

しかし、震災発生直後より、地域の皆様から営業再開を望む多くの声をいただきました。あらためて従業員一同、私共のお店が地域の皆様に愛されていることを実感し、その感謝を胸により強い使命感を持って地域社会に貢献していこうと、決意を新たにさせていただきました。

また震災に際し、創業者である穴見保雄氏が1億円の義援金を寄付されたことを受け、また、宮城県内の約400名の当社従業員が様々な形で被災支援をいただいていることを鑑み、当社も1億円を義援金として寄付させていただきましたことをご報告申し上げ、株主の皆様のご理解を賜りたいと存じます。

さて、当社の当中間期の状況は、第1四半期(1月～3月)におきましては、「贅沢ビーフシチュー」や「みすじステーキ」等の成功により増収増益を達成することができましたが、3月11日の震災以降、自粛ムードから3週間ほど全国的に売上が大きく落ち込むだけでなく、高単価商品の支持が減速する傾向が顕著になるなど、マーケットに大きな変化が起こっていることを実感いたしました。

このような変化を受け、第2四半期(4月～6月)は「とろけるチーズインハンバーグ」を核とした低価格ゾーンを強化した商品展開を行い、また、初夏の猛暑にも助けられ、なんと

が売上高と利益を確保することができました。

今後の日本経済は、福島原発の安定化や被災地復興の遅れ、また全国の原子力発電所の点検停止後の再起動の目処が立たないことによる電力供給不足への懸念と、激しい円高などの要因から、全く見通しの利かない状況でございます。

このような経済環境のなかで、基本的には慎重で手堅い経営をこれまでどおりに進めるべきだと考えておりますが、この数年間出店が足踏みを続けているなかで、諸事情による閉店により店舗数が減少していること、また、借入金の返済が大幅に進んだことから、来期からの出店に向けた準備を進めていく予定でございます。

最後になりましたが、株主の皆様には今後とも当社の経営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



気仙沼店の外観



気仙沼店の店内



がれき処理などのために集まった従業員



気仙沼店従業員の寄せ書き

「東日本大震災」義援金のお礼

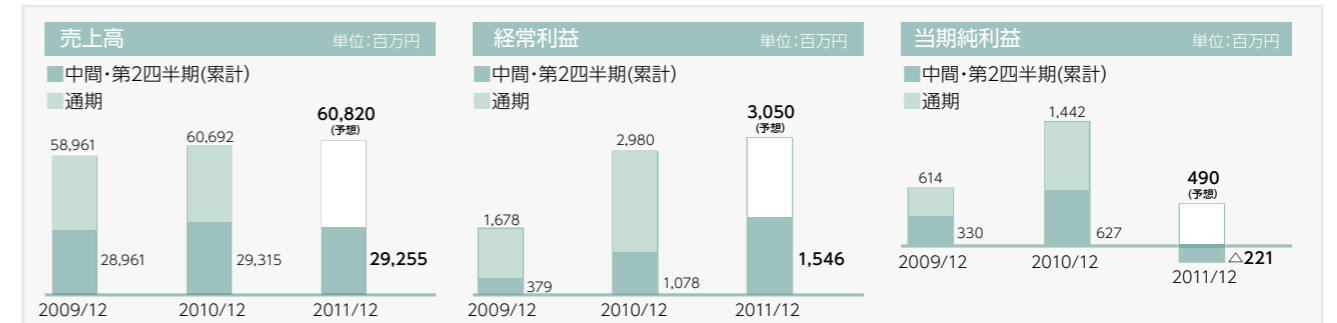
店舗店頭で受付しておりました義援金につきまして、右記の通りご報告させていただきます。

皆様からあたたかいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

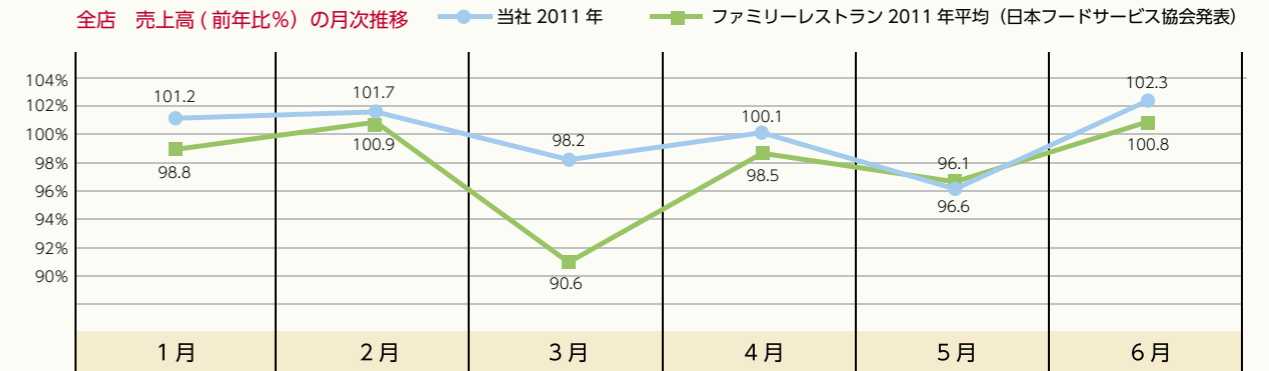
義援金総額について 総額 31,566,256円

お客様よりお預かりしました義援金は、日本赤十字社を通じて被災地にお届けし、被災者の救援活動や被災地の復興支援のために活用させていただきました。

連結業績ハイライト



※2011年12月期については、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用した影響額を織り込んだ予測となっております。



下期の具体的な取組み

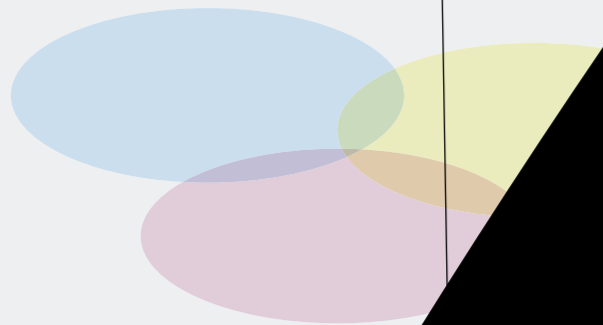
さらなる収益力向上に向け、
各施策に継続して取り組みます。





1月

株式の状況



開設されました株主様は

